

二葉

東京支部だより

支部活動の発展を願って

東京支部長 佐々木雅子



東京支部会員の皆様には、ますますご健勝のことと存じ上げます。平成十九年の定期総会には、学年幹事の皆様をはじめ、多くの会員の皆様のご出席をいただき、支部活動の発展に向け熱き思いを語り合い、有意義な会が開催できました。ここに紙面を借りて、心より感謝申し上げます。

ここ数年、代々の役員の皆様の支部への並々な情熱とご努力により、会則や内規の見直しが行われ、会報が毎年発行される等新たな取り組みが始められたり、役員活動が行いやすくなったりしておりますことは、たいへん有り難いことです。

十九年十月には、母校の百周年の記念式典が盛大に行われ、母校に関わった多数の方々と共に百年の歴史と伝統を深く感じて参りました。同時に、この東京支部にも半世紀以上の長い歴史があることに思いを深く致しました。

以前にも増して様々な不安を抱える社会情勢や生活の多様化する中であって、同期生との再会、同

窓生との新たな出会い等にもつながる東京支部の活動が脈々と受け継がれていくことは、素晴らしいことだと役員を経験し実感しております。

役員一同力を合わせて活動しておりますが、今年度常に頭から離れなかったことは、活動の継続ということでした。

次につなげていくための手立ての一つは、幹事会への出席です。幹事会は、先輩、後輩たぐさんの

同窓生の方と出会う貴重な機会です。同期会の活動の様子を聞き、刺激され、そこから新たな思いが湧いてくることもあります。まずは一歩踏み出して幹事会に出席してみてください。

支部活動を支え発展させていくのは、やはり同期会の活動です。

色々な事情でなかなか同期会が開けない場合もあると思いますが、二人でも三人でも集まれる人が取り敢えず集まる、そんなところから活動を始めて欲しいと、痛切に感じたこの一年でした。

総会が近づいて参りました。一人でも多くの皆様のご出席を役員一同心よりお待ちしております。

平成19年度 東京支部 役員



会計 竹村さえ子 (高17回)

副支部長 笠原富美子 (高17回)

会計 小松 桂子 (高17回)

副支部長 小口せつ子 (高16回)

記録 五味のりほ (高25回)

支部長 佐々木雅子 (高16回)

記録 古谷 妙子 (高25回)

副支部長 小嶋千津子 (高17回)

記録 山本 玲子 (高25回)

本部定期総会のお知らせ

日時 平成20年 5月17日 (土) 9:30~
会場 RAKO華乃井ホテル (上諏訪)
☎ 0266-54-0555
講演講師 山川 純氏 (高女39回卒)
演題 「健康年齢を延ばすために」
—正しい運動・栄養・休養の知識—
会費 4500円
申込 本部事務局 ☎0266-52-9595

平成20年 東京支部総会のお知らせ

日時 平成20年 5月27日 (火) 10:30~15:30
会場 日本青年館 (新宿区)
4F ホテル宴会場「アルデ」(元東洋軒)
☎ 03-3475-2525
講演講師 金子詔一氏 (ソングライター)
演題 「音楽の不思議」
会費 5000円 (昼食パーティー)



平成十九年
総会報告
 十九年度副支部長
 小口せつ子(高校16回)

平成十九年五月二十九日(火)、東京支部総会が二四名の参加のもと日本青年館において開催されました。諏訪の母校からは一ノ澤澄夫校長はじめ、同窓会本部役員3名、鮎沢渡先生、近田ユキ先生、野村とも先生、小菅重雄先生にご出席頂きました。

北村幸子副支部長の開会挨拶の後、平林順子さん(高校18回)の伴奏で校歌斉唱、引き続き物故者の皆様に慎んで黙祷を捧げました。木下早苗支部長から同窓会活動について「時代にあった運営改革を」の課題のもとに規約・内規改正や見直し等についての説明がなされました。また、校歌の「いくたび吾等帰りに新しき命を汲まん魂の永久のふるさと」の一節のように同窓会も「魂の永久のふるさと」であり東京支部の活動を通して、新しき命を汲んでいって頂きたいとの挨拶がございました。

ご来賓頂きました方を代表いたしまして、一ノ澤校長からは母校の様子、進学率や課外活動などの生徒達の活躍ぶりを、また笠井嘉代子同窓会会長からは母校創立百周年の進捗状況などの報告を交えて祝辞を頂戴いたしました。また総会議事では提案いたしました。

した内規改正や見直し等につきまして出席者の皆様から了承頂きました。また東京支部の活動につきまして活発なご意見を頂戴いたしました。

第二部は「歌と生きる」の演題で講演とコンサートが声楽家竹村靖子先生(高校15回生)により行われました。幼い頃から現在にいたるまでの歌との拘わりあいの軌跡のお話と「この道」で始まりオペラのアリア等含めて11曲またアンコールでは「ダニーボーイ」と「千の風になつて」の2曲をピアノ伴奏石野真穂さんとともに披露頂きました。アンコールの「千の風になつて」では会場の皆様も大勢口ずさんでおられました。

第三部は茶話会。高女36回生11名の八十歳をお祝いしてお花の贈呈、高女36回生を代表して青木武子様よりご挨拶を頂戴いたしました。また来賓の鮎沢先生、近田先生、野村先生、小菅先生よりご挨拶を頂戴いたしました。

最後に「白き翼」「今日の日はさようなら」を全員で合唱し、十九年度の総会は閉会となりました。本年度も盛会裡に総会を終了することができました。大勢の方々のお力添えに對しまして役員一同心より御礼申し上げます。



平成18年度諏訪二葉高等学校同窓会東京支部決算報告

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

1. 本会計

〈収入の部〉

(単位:円)

項目	予算	収入	備考
1 前年度繰越金	2,435,672	2,435,672	
2 維持費	1,650,000	1,631,060	振込み1,255,560(延1,382名)・現金375,500(延388名)
3 寄付金等	0	5,000	19年3月卒業生5名より
4 雑収入	30	46	貯金利息
収入合計	4,085,702	4,071,778	

〈支出の部〉

(単位:円)

項目	予算	支出	備考
1 総会 講師謝礼・お車代 会場費用・諸経費	120,000 110,000	120,000 35,516	総会資料印刷費・会場機器代等
2 支部便り作成費	170,000	139,727	東京支部便り「二葉」第11号
3 弔慰金	10,000	5,640	弔文レタックス
4 役員通信費・交通費	137,000	131,760	役員通信費37,000円、交通費94,760円
5 役員会費用	150,000	167,076	役員会7回分
6 幹事会費用	250,000	213,280	幹事会2回分
7 送料・通信費	330,000	286,253	総会案内資料・宅配便・メール便・葉書代等
8 印刷・コピー代	100,000	86,211	封筒印刷・用紙・コピー・インク・フラッシュメモリ代等
9 事務用品	15,000	5,657	封筒代等
10 渉外 二葉関係 連合同総会	80,000 66,000	82,680 83,340	本部総会交通費、歴代支部長会補助、旧役員慰労会補助 東京同窓連・南信同窓連
11 雑費・予備費	20,000	4,000	南信連合同災害寄附金
支出小計	1,558,000	1,361,140	
12 東京支部同窓会基金積立金	50,000	50,000	
13 次年度繰越金	2,477,702	2,660,638	
支出合計	4,085,702	4,071,778	

2. 東京支部同窓会基金

(単位:円)

項目	予算額	実行額	備考
1 前年度繰越金	2,548,000	2,548,000	
2 18年度積立金	50,000	50,000	
合計	2,598,000	2,598,000	次年度繰越金

※総会会計報告

(単位:円)

収入	
・会費(5,000×289人)	1,445,000
・本部より会場費	10,000
・本部より御祝儀	5,000
・本会計より	155,516
合計	1,615,516
支出	
・シダックスレストランマネジメント会食代	1,346,845
・講師謝礼	120,000
・諸経費	148,671
合計	1,615,516

上記の通りご報告いたします。

平成19年3月31日

会計係 五味順子 ㊟
 西村直子 ㊟

上記は会計監査の結果間違いありません。

平成19年4月24日

会計監査 杉村ちえ子 ㊟
 竹村さえ子 ㊟



高女36回生へ花束贈呈

「歌と生きる」

講師 竹村 靖子氏 (十五回生)

ピアノ伴奏 石野 真穂氏



ペラ (赤いろうそくと人魚) の主役に当時の三年生の高橋部長、宮坂富紀子副部長、指揮者新村明子さん等に選んでいただき、その作品のレッスンの為、母の諏訪高女の先輩であった野村とも先生に師事する事となりました。レッスンの際、野村先生は「外国の歌だけでなく、日本の歌が上手に歌えるようになるとは、とても大切なですよ」と良くおっしゃっていました。

このお言葉が、現在も日本歌曲を大切に歌って居る所以です。

東京芸術大学入学後、野村先生のお嬢様の真理さんに、伴奏をして頂き、名コンビと皆さんに言われ楽しく素晴らしい音楽の時間を過ごす事が出来ました。

今から思えば、とても贅沢で素晴らしい大学生活を送ることが出来たと思います。

大学入学の為、畑中良輔教授に師事、芸大入学後、浅野千鶴子教授、大学院では原田茂生教授に師事いたしました。

歌

- ・ドビッシューのマンドリン
- ・セレナーデ
- ・シューベルトの野バラ

幼稚園までは、松本で育ちました。幼稚園の先生が、練習中のピアノに触れさせてくださり、音楽との出会いが生まれました。その後、諏訪市の高島小学校に入学しました。

小学校五年生から、合唱団に入り、教育映画(少年合唱隊)に出演。上諏訪中学校においては、NHK合唱コンクールに出場、優良校に選ばれる等、歌う楽しさを大いに知りました。

母校二葉高校の一年生の時、音楽部に入部。文化祭に行った、オ

お話

東京芸術大学大学院では、オペラ科に在籍。在学中二期会研究生となり、修了時、最優秀賞受賞。デビューは二期会オペラ「魔笛」夜の女王でした。その後多数のオペラ、コンサートに出演。

歌

- ・オペラよりアリア ガーシュウィン
- ・(ガーシュウィンの遺言により、オペラでは、黒人のみ歌うことが許されている曲です)
- ・カルメンより ハバネラ
- ・プッチーニより 私の父様 (私の結婚を許して下さいと心からお願ひする歌です)

お話

二〇代の後半劇団四季のオンデイヌに客演。それが縁で四季の俳優石崎二郎と出会いました。石崎の父は今も亡き俳優の佐分利信であることも大分後に知り、驚いた事を覚えています。

結婚後二才の息子を連れて、イタリアに留学できたのも主人と父のお陰でした。1990年以降、隔年でタルトンポールドゥイン氏とリサイタルを開催、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、英語、ロシア語、チェコ語、

南米の言葉等、世界各国の歌曲を演奏、内外で評価されるようになりました。

歌

- ・子守歌
- ・ブラジル(ポルトガル語) ブラマーガ作曲
- ・恋に夢中 (スペイン語) トリーナ作曲

お話

息子の小さい頃、本格的なオペラ歌手としての活動は出来ませんでした。そんな時も、物静かな義父に「活動していない時でも、いつでも準備していることが、大事なんだよ」と焦っていた私に、助言していただいたこと、大切に思っています。

二〇〇二年、五〇代になって、文化庁海外派遣(ニューヨーク)決定。

主人は、闘病中ではありませんでしたが、私の周囲の方々のご協力や後押しがあり、もう一度留学。

どんな年齢になっても、訓練や勉強を継続する事の大切さを、この機会に又学びました。素晴らしい経験でした。



継続と学ぶこと、これは音楽だけでなく、人生にも言える事ではないかと痛感しました。

とても残念なことでしたが、一昨年に闘病中の主人を亡くしました。しばらくは、歌う気持ちになかなかなれない時期が続きました。すべて周りは変わっていかないのに、私だけ全く変わってしまった。大切な人を失い、喪失感があまりにも大きかったです。

しかし、丸三年経ち、やっと音楽に向き合えるようになった今日この頃です。一生涯歌っていられるよう、精進したいものです。

歌

- ・からたちの花
- ・うぬぼれ鏡
- ・歌を下さい
- ・アンコールの歌
- ・ダンボーイ

千の風になって (アンコールの最後の歌、千の風になっては、大勢の方々が大変感動し、涙する素晴らしい締めくくりの歌となりました)

講師プロフィール

1963年諏訪二葉高校卒業
東京芸術大学・同大学院オペラ科修了。

東京学芸大学、東京音楽大学講師を経て、現在二期会会員、東京室内歌劇場会員。

活躍する同窓生

音楽は一生の友

川合ファミリィ

推薦者

内藤たか子（高校17回）

川合ファミリィとは、同期の川合（旧姓吉田）優子さんと二人の息子さんです。思い起こせば高校当時、優子さんがお姉さまとピアノの連弾をされたこと、そしてそれが私にとって憧れだったこと等なつかしく思い出しました。



を共演し、オーケストラ団員の方々と出会われたことが息子さんにヴァイオリンを習わせたきっかけだったそうです。そして、お二人とも三歳からお稽古を始めたそうです。仕事をしながら幼い子どもを育てるのは大変でしたが、一日に一度は親子が真剣に一つのことに向き合う時間をもてたことそして、ファミリィで演奏することとで納得がいくまで徹底的に合わせ練習できる事が楽しみでもあり大変でもあったとのことでした。

練習の過程では、親子の静かなバトルもあったようですが、成長したお子さまと演奏活動ができることは、大変うらやましい。長続きする秘訣を、次のように語っておられます。

「継続は力なり」本人の意思が第一ですが、家族のバックアップが大きい。ただがんばらせるのではなく、家族中で音楽を楽しみ、支えあえる環境作りが大切。そして、無料で聴いていただけるコンサートを続けるため、貯金を心がけていること、演奏は三人ですが、写真撮影、ちらし、プログラム作りはご主人の手作りとのこと。

又、仕事だけではない「自分」を持つことは人生の中で確実に助けとよりどころになると思う。……と。

三年前に初めて聴き、演奏のすばらしさは勿論ですが、ファミリィの絆と温かさに感動しました。



優子さんは現在、東京学芸大学、目白大学の講師等をされながら、演奏会に取り組んでおられます。昨年は、次のような活動をされています。

♪一月八日 東京外国語大学留学生支援チャリティーコンサート

♪十一月十七日 小平市立学園東小学校創立三十周年記念式典祝賀会にて祝賀演奏

♪九月一日 二台のヴァイオリンコンサート（五回目）

これからのますますのご活躍を期待しています。そして、ずっと応援していきたいと思えます。

「一人芝居」

遠藤真弓さん

推薦者

小嶋千津子（高校17回）

「一人芝居に取り組む女優 遠藤真弓さん」を信濃毎日新聞で知り、お会いしました。エネルギーシユな彼女を紹介します。

岡谷市に生まれ、小学校の頃から女優を夢見ていた。そして、諏訪二葉高校を卒業後上京。「前進座」「文学座」の各俳優養成所を経たのち、役者として幾つかの舞台に立った。そんな彼女を大きく変えたのは、最大の理解者だったお母さんの死だった。「語り」を

興味とし、死の直前にも自身の闘病記を記録するほど情熱を傾けていたお母さん。死の床で交わした



最期の会話は「人柱」の出でくる伝説の話だった。そして、「人が生きていく上でどうしようもないことがたくさんある。そんな言葉にならないような物を舞台で表現できたなら……。」と思うようになった。

そんな時に巡り合ったのが、諏訪郡下諏訪町の砥川沿いにある「万治の石仏」を題材にした小説「と川石人語り」だった。貧しい農民が、火付けの疑いをかけられた息子の代わりに「人柱」になるというお話である。「生きるために人々がいて、それを裁く人々も傍観者も、同時に深い闇を抱えている。人は誰しも必ずこの闇を持っている。万じ仏を見たらさっと誰もが感じるであろう、人の命の重みを目の当たりにしたような「おっかなさ」を表現したかった。しかし終演後すぐに「罪の念は表現できても、その先にあるものは何なのか」どうしても知りたいと思った。そして、二〇〇六年五月、東京芸術劇場（東京池袋）で、今度は「祈り」をテーマに再演を果たした。

た。それまで消極的な考え方だと思っていた「祈り」こそが、その先にある物だと考えたからだ。

「と川石人語り」の作者・市川一雄さんは、遠藤真弓さんのことを次のように語っている。彼女の民俗芸能探求と語り芸にける情熱

は半端じゃない。お父さんは万葉学者の一雄さん、お兄さんの耕太郎さんもこれまた歌壇をはじめとする古代歌謡研究の国文学者である。真弓さんの「語り」には、そういう背景がある。語り物の新たな地平を切り拓き、大きくはばたいていてきたのだ。……と。

今、遠藤さんは、鳴り物の馬場清則さんと言葉奏で、音を語る二人舞台に取り組んでいる。「みなまた 海のかえ」

水俣病を題材にした石牟礼道子さんの作品の舞台化。経済の力は確かに凄い。ただ、それに負けないだけの「魂の力」がないとこの世は歪んでしまう。そして、その魂の力こそ「祈り」だと思ふ。この気持ちを籠めてこの作品に取り組んでいる。どんな舞台になるのか、とても楽しみです。



高女三十七回生の思い出

山下依子 (高女37回)

私達高女三十七回生は昭和十六年入学、二十年に卒業というあの戦いと在校の次期がびったり重なった時代でした。学徒報国隊として四学年の殆どを工場などで働いた私達は工場の昼休みの短い時間に校長先生から教えていただいた漢詩をはじめとして諸先生方から

同期会だより

様々なお教えをいただいたことが記憶に残っております。勉強から遠ざからざるを得なかった生徒に對する先生方のご配慮やご苦労を今にして熱く思い出します。戦後の歩みはまことにそれぞれでしたが、世の中が落ち着くにつれ東京在住者のクラス会を何度も持つことができるようになりました。記録ノートに残っている昭和三十九年の会費は一人八百円でした。それ以外のすべての費用がまかなえたようです。大体二十人前後の会を何度か持つ間には諏訪へ出かけて行って学年合同の会も致しました。そんな私達も来年は八十才になり



ます。非常時の中での学生生活、又急速に変化した社会の中での集まり、今では全て大切な思い出になりました。

「八葉会」の名のもとに

宮川秀世(高校8回)
小林郁子(高校8回)

高校八回生の同期会は「八葉会」の名のもと四十回を重ね古希を迎えました。一九六六年東京在住有志を中心に発足。懇親を深めるだけでなく、お互いに学び合える場に、と質実・地味をモットーに年一回開催してきました。

会の歩みを振り返ると決して平坦ではありませんでした。四十歳初頭は二年間のブランクがあり、何とか再会にこぎつけました。



子育ても一段落し、全国各地にしっかりと生活の根をおろした会員達が引き受け、開催地が広がりました。遠くは北は北海道、西は姫路までも行きました。この間幹事として関わった人は会員の八割にも達しています。維持費納入も増え、会の運営は組織的に継続されるようになってきました。多くの支え手に花開いた「八葉会」です。卒業五十周年記念は新校舎の母校訪問、四十回目の今年は「八葉会とともに」の記念誌を発行。これは会員共有の宝物となりました。次回は春の桃源郷での出合いが楽しみです。

「木の葉会通信」

神山初江 (高校18回)

昭和二二・二三年生まれの私たちは、いわゆる団塊の世代と呼ばれる学年です。ベビーブーム世代としての苦労もあった反面、日本が戦後復興から経済発展を遂げる過程とともに成長してきた幸せな世代でもあります。故なのか、とてもエネルギーが豊富な学年と言われてきました。同期生は三五七名。東京支部会員は百名を越えます。長年支部の幹事を務めてくれた一人の同期生の努力があつて、五十代に入ると同期会の参加者も増え、最近では特技を生かした友の編集で、「木の葉会通信」を発行しています。

この五月には、諏訪の同期生達と協力し、念願の還暦同期会を開くことができました。七名の先生方がご出席下さり、同期生は九十七名が参加。卒業して四十二年ぶりの再会は何者にも勝る喜びでした。これからは東京・諏訪と交互に同期会を開く予定です。以前にも増してつきあいが広がり、深まることを心から楽しみにしています。



「写真で二葉一〇〇年あゆみ」の編集委員として

百年史編集委員会は、退職された先生方や同窓会本部役員など十数名の委員で二〇〇五年三月から毎月二回開かれています。百年史の編集にかかわる前には、二葉高校は三年間でさつと通り過ぎたところと軽く捉えていました。しかし、編集過程で長い歴史の中のさまざまな教師——勤勉と質実剛健の精神を尊び、常に心が純正であることを奨めた初代校長岩垂今朝吉、歌人であることをよそに教育に全身全霊を打ち込んだ三代校長土屋文明、国語教師として生徒の心を惹き付けた大村はま、長年、美術教師として慈しみの眼差しをもって指導に当たった宮芳平ほか——を知り、諏訪高女時代から脈々と続いている

教師による人間的薫陶、その許での生徒同士の影響力の大きさに気づきました。こうした伝統の中で、知らず知らずに私たちの生真面目さや自主性が形作られたのだと納得しました。そしてふと気がつく、二葉高校をすっかり愛してしまっている自分が居ました。



伊藤 一枝 (高校12回)

平成18年度東京支部活動内容

役員	支部長 木下 早苗 副支部長 北村 幸子 会計 五味 順子 記録 石川美紀子 会計監査 杉村ちえ子	佐々木雅子 西村 直子 江川 直子 竹村さえ子	小口せつ子 吉川喜美枝
年月日	事項	備考	
6/13	第1回役員会	年間事業計画 役員役割分担	
7/25	第2回役員会	第1回幹事会準備 本部理事会・同窓連関連について 次期定期総会講演講師について等	
9/12	第1回幹事会	18年定期総会会計報告、アンケート結果報告 18年事業の進行状況、会報発行計画について 維持費納入者拡大について 内規改定、同期会活動報告	
(H19)	歴代正副支部長会	現況報告と懇親会 (出席者26名/於アルデ)	
1/12			
2/6	第3回役員会	中間会計及び監査報告、内規改定について 第2回幹事会準備 次期定期総会について 卒業生へ支部入会の勧誘方法について	
3/6	第2回幹事会	中間会計及び会計監査 内規改定について 東京支部日より第11号の披露 総会関連事項検討、次期役員(案)について	
3/18	第4回役員会	総会案内印刷	
4/24	第5回役員会 (拡大)	役員・次期役員候補者による総会準備、役員引き継ぎ、会計監査	
5/27	第6回役員会 (拡大)	役員・次期役員候補者による総会前々日準備	
5/29	平成19年総会	出席者 222名 (会員214名、来賓8名)	
・ 会報 東京支部日より「二葉」11号発行 ・ 本部理事会出席4回、本部定期総会出席、母校創立100周年記念事業実行委員会参加 ・ 南信同窓連出席4回、東京同窓連出席3回、南信同窓連親睦旅行参加 ・ 正副支部長4人会、臨時役員会随時実施			

謹んでご冥福を
お祈り申し上げます
(平成20年2月4日現在)

高女	38 平山 いさ子様 (藤森)	H 12 . 3
37 小林 麗子様 (渡辺)	H 19 . 2	
34 長崎 悦子様 (赤羽)	H 19 . 3	
33 森谷 美衛様 (岩波)	H 17 . 8	
30 茅野 すみ子様 (岩波)	H 18 . 6	
28 名川 愛様 (岩波)	H 19 . 2	
26 小山 志げ様 (中沢)	H 19 . 1	
25 宮坂 千津江様 (河西)	H 18 . 9	
25 宮田 みわ様 (加藤)	H 19 . 7	
24 矢島 花様 (浜)	H 19 . 12	
高校	21 横森 ふみえ様 (小松)	H 19 . 3
20 小幡 ちず様 (川村)	H 19 . 10	
16 永田 みね子様 (中村)	H 18 . 4	
14 斉藤 久乃様 (黒澤)	H 19 . 5	
1 中川 栄子様 (後町)	H 19 . 6	
2 長崎 邦子様 (増沢)	H 18 . 7	
4 大橋 妙子様 (宮澤)	H 19 . 5	
5 宮坂 和子様 (宮澤)	H 18 . 10	
5 宮澤 澄子様 (真道)	H 19 . 2	
5 二宮 敬子様 (窪田)	H 19 . 10	
6 矢島 美智子様 (小松)	H 19 . 4	
9 堀内 敏江様 (千村)	H 18 . 11	
9 田中 令江様 (永田)	H 19 . 5	
17 茅野 ふじ江様 (細田)	H 19 . 8	
23 渡部 寿子様 (秋山)	H 19 . 4	

事務局だより

☆総会を週末にしてほしいとの要望があります。ですが、会場「アルデ」は、元東洋軒の故金子頼子氏(高女17回)のご好意で平日のみ会場費は無料で借りることができません。他に会場を借りることは、残念ながら予算上難しい現状です。

☆幹事名を知らせてほしいという声がありますが、今の世の中の流れで出てきた個人情報保護法によりできません。同期会等でご確認下さい。

☆幹事会は年二回(九月と三月)役員会は数回行われ、総会に向けての準備・諸問題検討・交流・親睦等行っています。

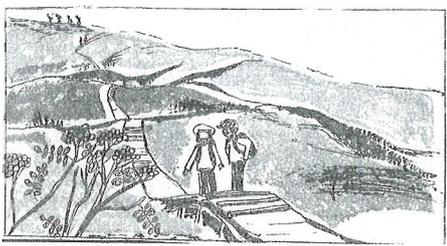
☆現在の役員選出制度を何とか維持していきたいのですが、大変厳しい状況ができています。みんなで考えていく時期にきています。と思っています。

☆東京支部は年千円の維持費で活動しています。

編集後記

編集作業を通し、多くの方と交流でき、改めて母校を見直すことができました。

このたよりが、会員の皆様の連帯感と呼び起こすきっかけになれば幸いです。



誌面イラスト：渡辺京子(高校17回)